

# 人口ビジョン策定に向けた人口動向分析

---

2015年 4月10日  
広島県総務局経営企画チーム

# 目次

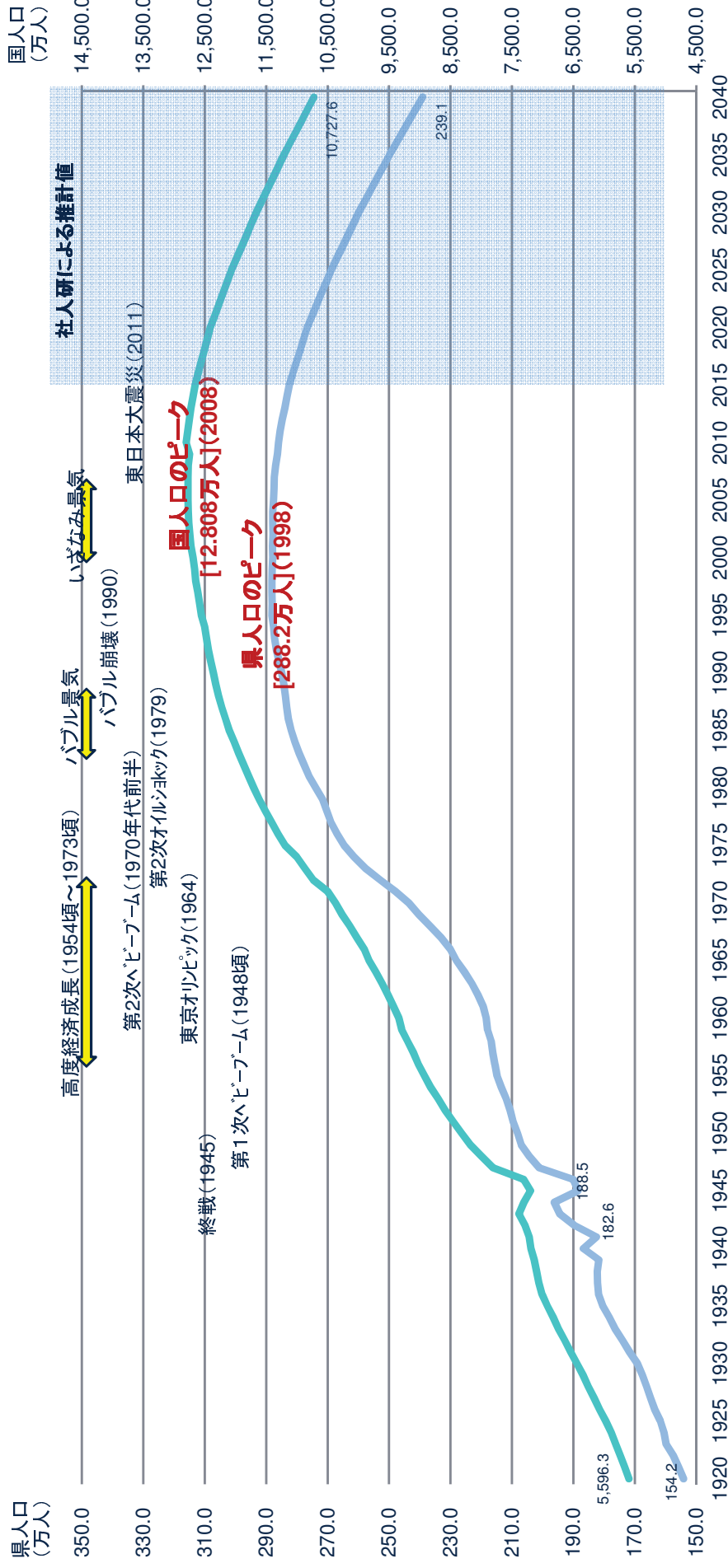
<u>人口動向分析</u>	[頁]
1 県人口の推移	1
2 年齢3区分別人口の推移と将来推計	2
3 出生・死亡, 転入・転出の推移	3
4 自然増減と出生・死亡数の推移	4
5 社会増減と転入・転出数の推移	5
6 年齢階級別の人口移動の状況	6
7 都道府県間での人口移動の状況	7
8 本県人口移動の長期動向	8
9 県内市町の世代別移動状況(進学・就職期)	9
10 県内市町の世代別移動状況(子育て～高齢期)	10
11 二大都市(広島市, 福山市)への人口集中	11
<u>(参考)人口シミュレーション</u>	
12 シミュレーション①県人口	12
13 シミュレーション②県人口	13

# 人口動向分析

# 1. 県人口の推移

✓ 県の総人口は、概ね我が国の人口増加と同様に増加を続け、**1998(H10)年に288.2万人のピークを迎えた後に減少へ転じ、2040(H52)年には約240万人となる見通し**

(図表1) 我が国の総人口及び県人口の推移と見通し



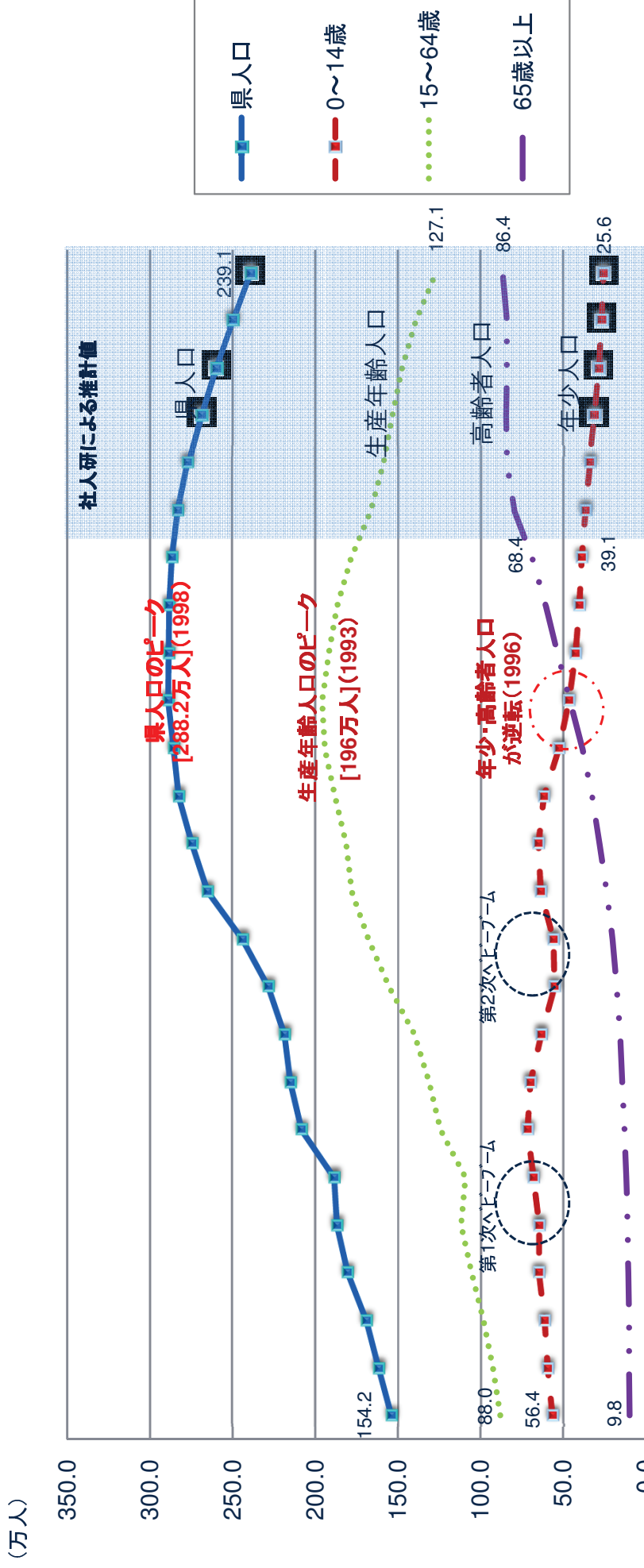
— 県人口 — 国人口

※1920 (T9) 年～2013 (H25) 年までは、総務省統計局「国勢調査」「推計人口」「推計人口」(各年10月1日現在) ※2015(H27)年以降は、国立社会保障・人口問題研究所の平成25年3月推計  
 ※県人口には、2012 (H24) 年8月1日現在分より、外国人も住民基本台帳法の適用対象となったため、住民基本台帳により集計している

## 2. 年齢3区分別人口の推移と将来推計

- ✓ 生産年齢人口は1993(H5)年に196万人でピークとなり、その後減少
- ✓ 1996(H8)年に高齢者人口が年少人口を上回り、両者の差は更に拡大

(図表2)年齢3区分別人口の推移と将来推計(広島県)

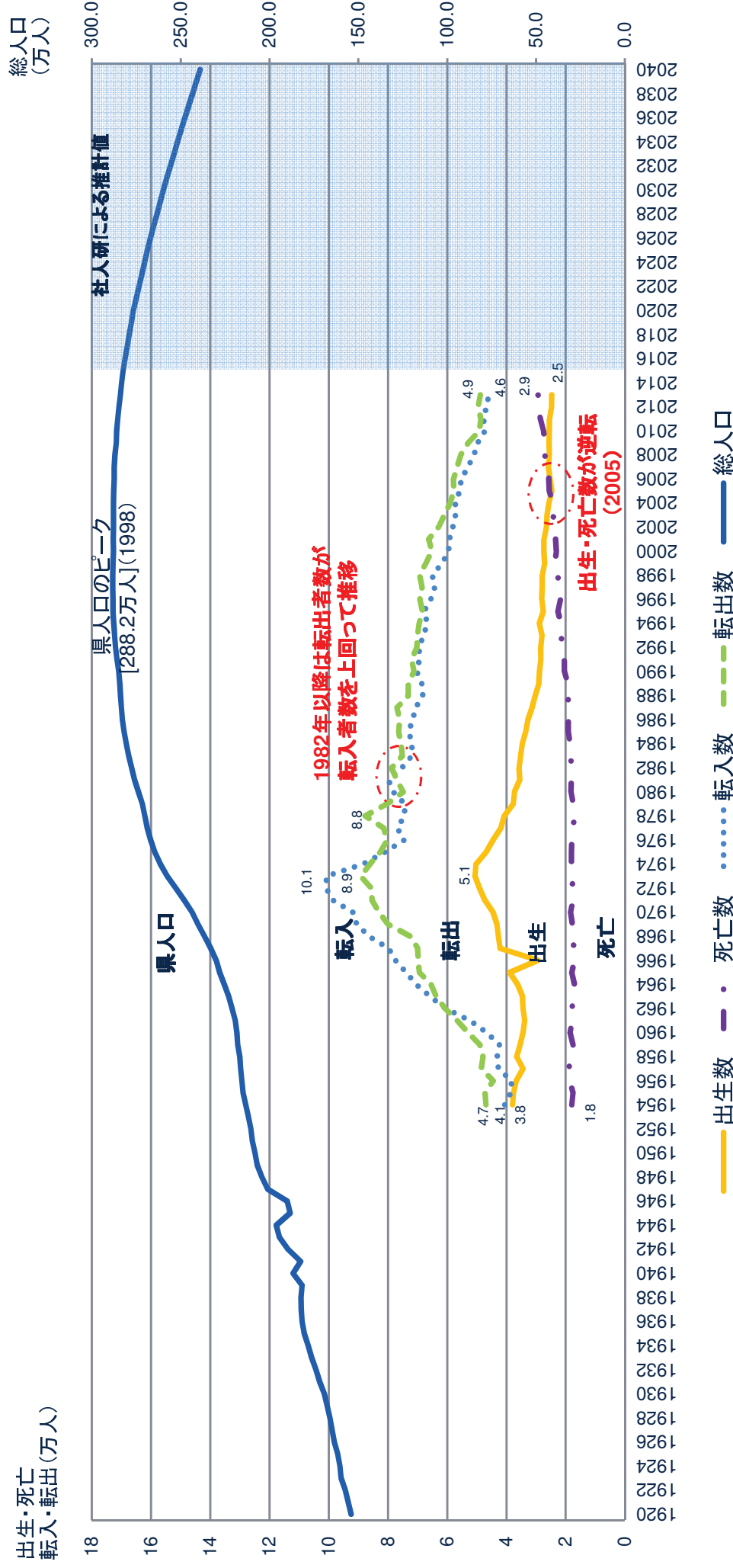


※総人口および年齢3区分別(0~14歳, 15~64歳, 65歳以上)人口は, 総務省統計局「人口推計」と「国勢調査」による。また, 総人口と各年齢区分の合計を一致させるため年齢不詳者を各年齢区分の比率により振り分けている。なお2015(H27)年以降は, 国立社会保障・人口問題研究所の平成25年3月推計による。

### 3. 出生・死亡, 転入・転出の推移

- ✓ 1950年代以降, 出生数が死亡数を上回って推移してきたが, 2005(H17)年に**逆転**
- ✓ 1982(S57)年以降, 転出者数が転入者数を上回って**推移**(長期的な転出超過傾向)

(図表3) 出生・死亡, 転入・転出の推移(広島県)

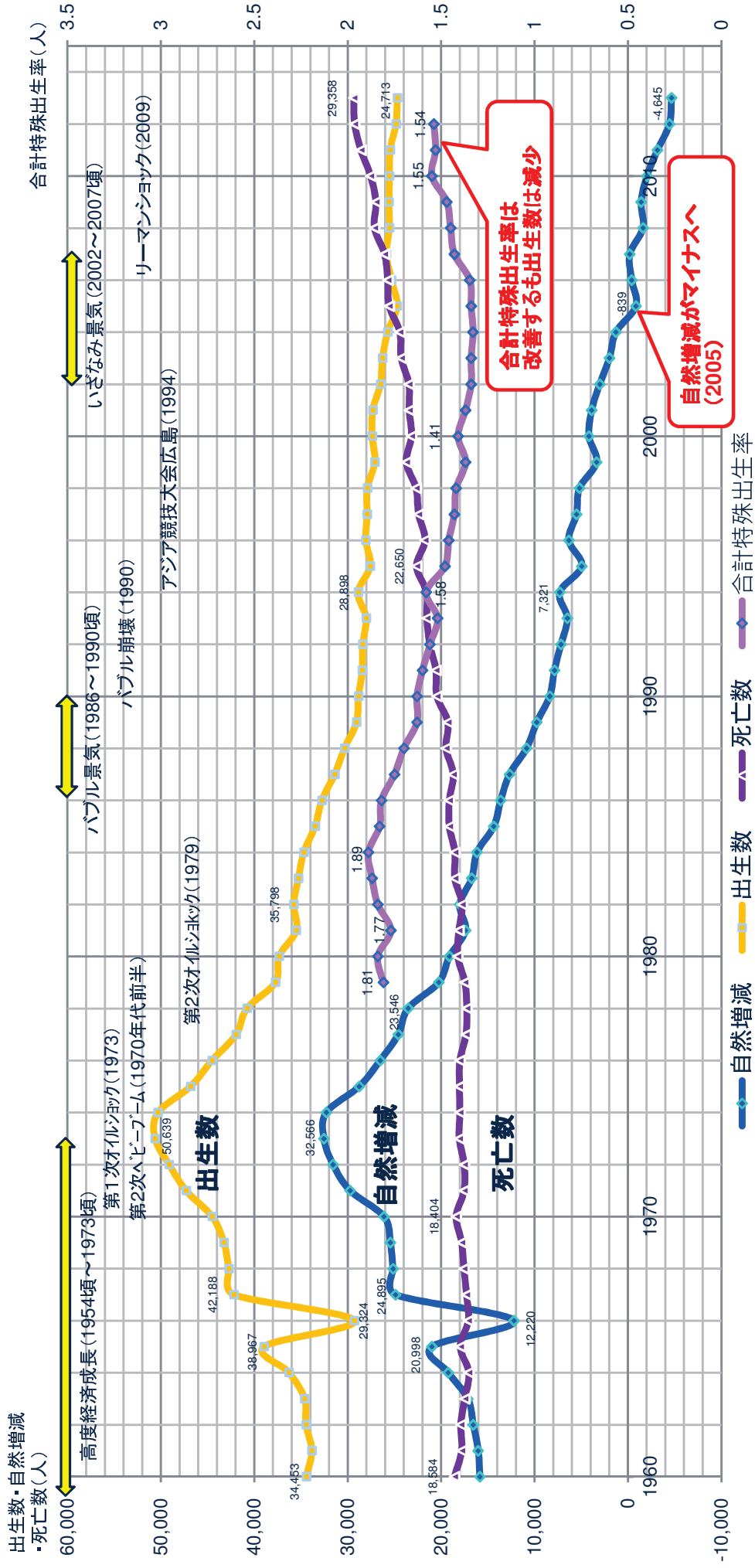


※出生・死亡数は, 厚生労働省「人口動態統計」による ※転入・転出数は, 総務省「住民基本台帳人口移動報告」による

# 4. 自然増減と出生・死亡数の推移

✓ 2005(H17)年以降、合計特殊出生率は改善傾向にあるが、出生数は引き続き減少傾向  
 ✓ 2005(H17)年に自然増減がマイナスとなって以降、マイナス幅は拡大傾向

(図表4) 自然増減と出生・死亡数の推移(広島県)

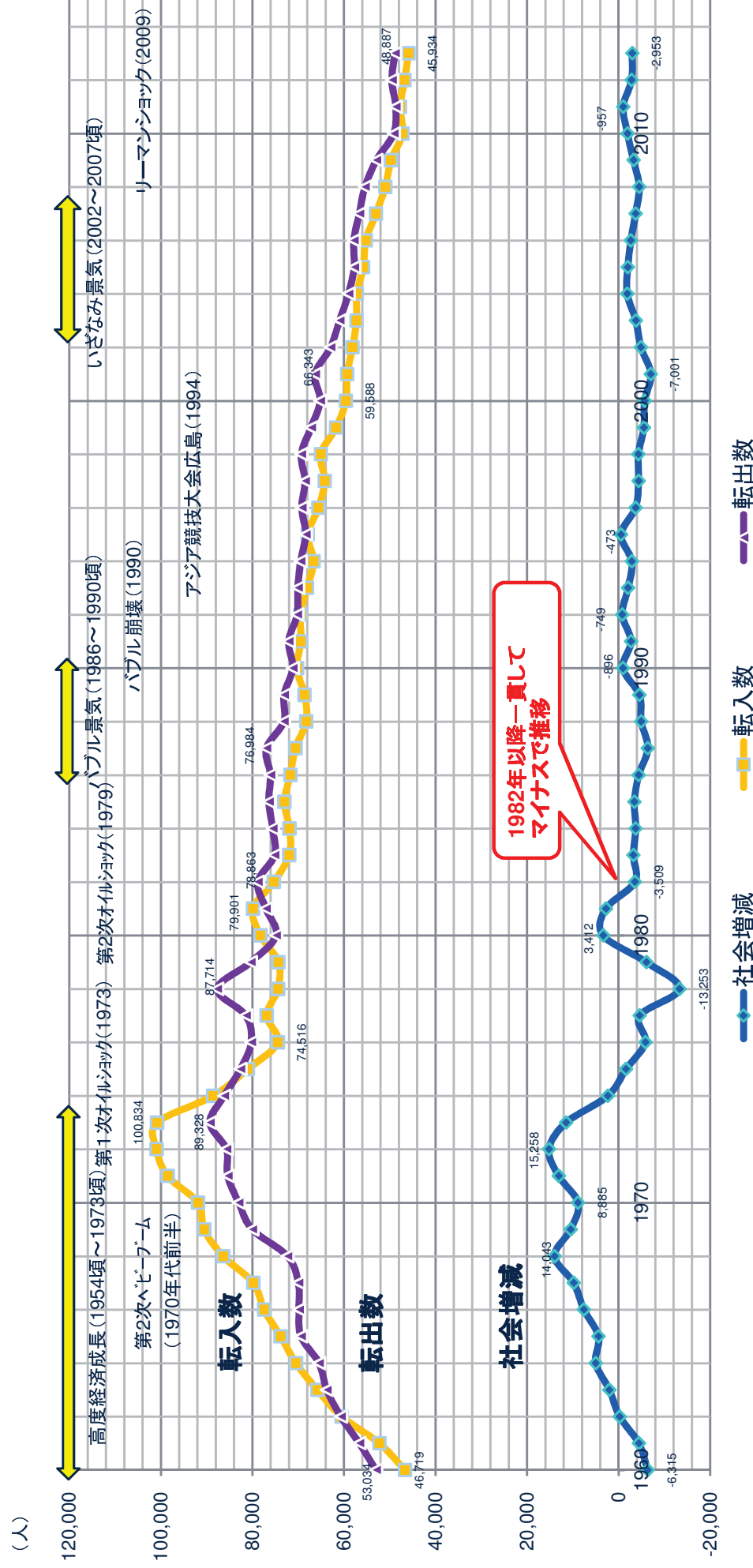


※自然増減は厚生労働省「人口動態統計」による。  
 ※出生・死亡数は厚生労働省「人口動態統計」による。  
 ※合計特殊出生率は「平成24年人口動態統計年報(第41号)」による。

# 5. 社会増減と転入・転出数の推移

✓ 本県社会増減は、1982(S57)年に社会減に転じたのち、一貫して転出超過で推移

(図表5)社会増減と転入・転出数の推移(広島県)



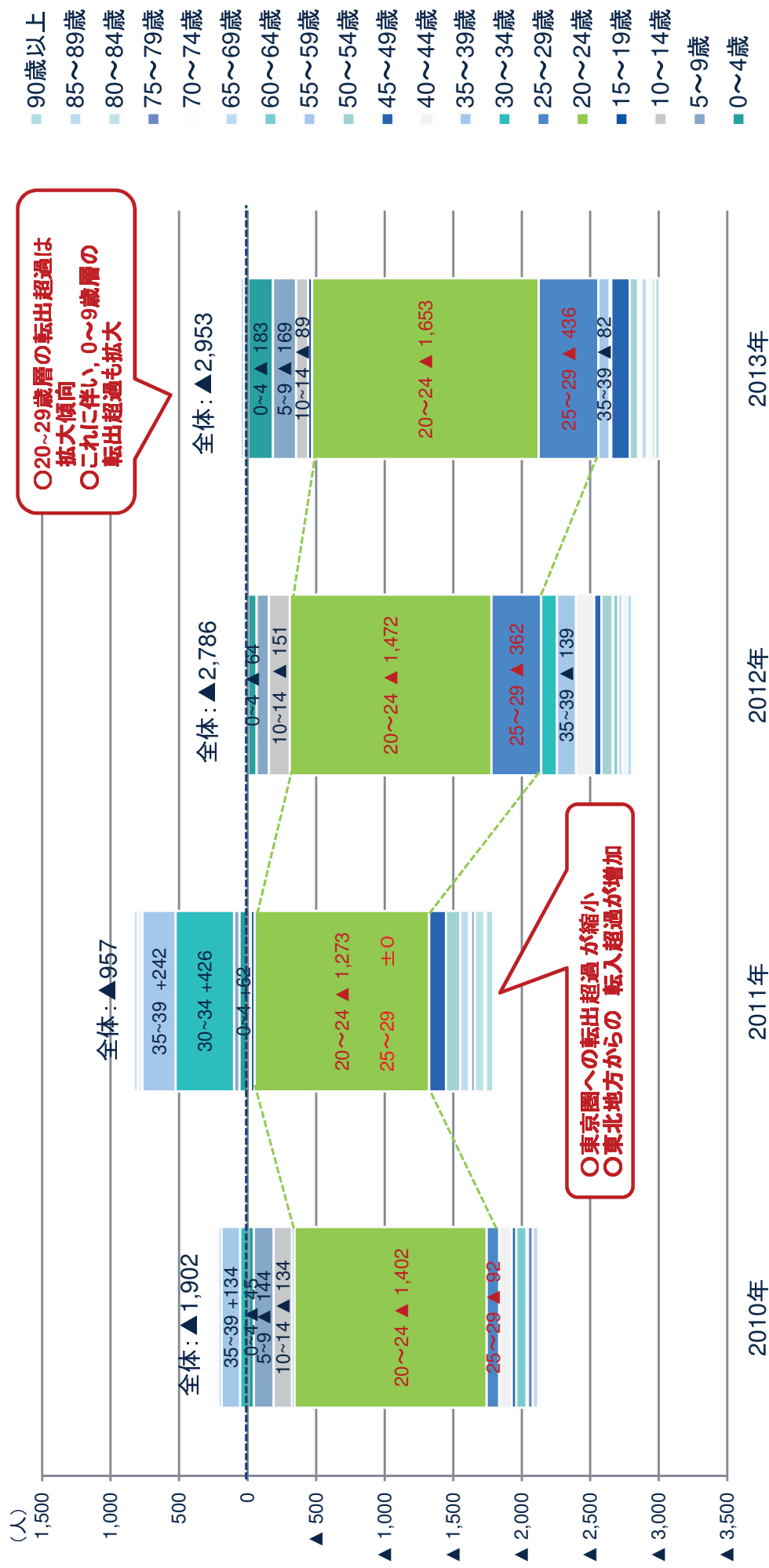
※自然増減は、厚生労働省「人口動態統計」による ※転入・転出数は、総務省「住民基本台帳人口移動報告」による



# 6. 年齢階級別の人口移動の状況

✓ 本県の20～24歳の転出超過は近年拡大傾向 2010(H22)年(1,402人)⇒2013(H25)年(1,653人)  
 ✓ 本県の25～29歳の転出超過は近年拡大傾向 2010(H22)年( 92人)⇒2013(H25)年( 436人)

(図表6)年齢階級別の転入超過の状況(広島県)

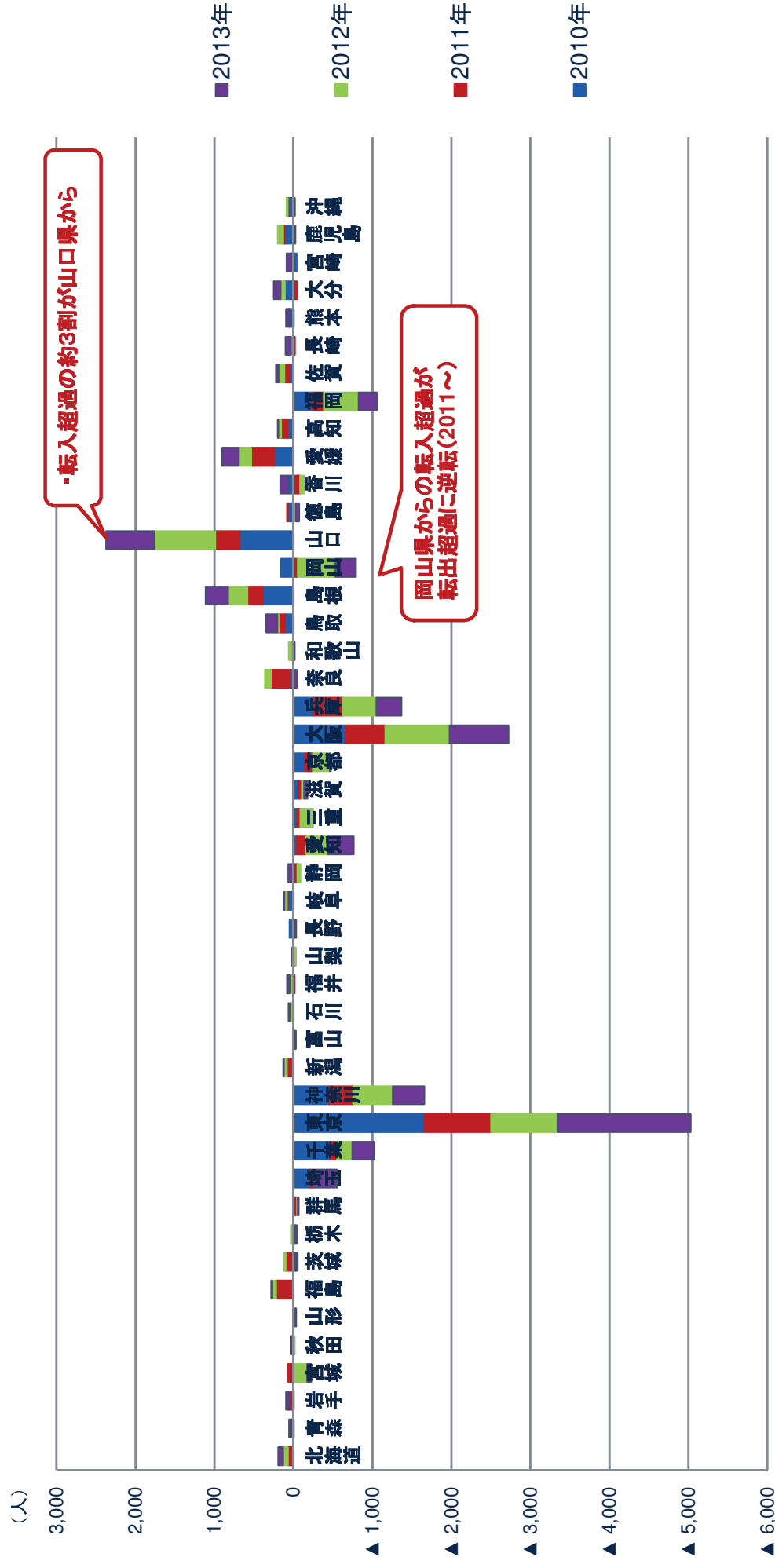


※転入・転出数は、総務省「住民基本台帳人口移動報告」による。

# 7. 都道府県間での人口移動の状況

- ✓ 本県からの転出超過は、東京、大阪、兵庫、神奈川、兵庫、福岡、千葉、岡山、愛知、埼玉、京都など
- ✓ 本県への転入超過は、山口、島根、愛媛、鳥取など

(図表7) 都道府県間での転入超過の状況(2010(H22)～2013(H25)累計)

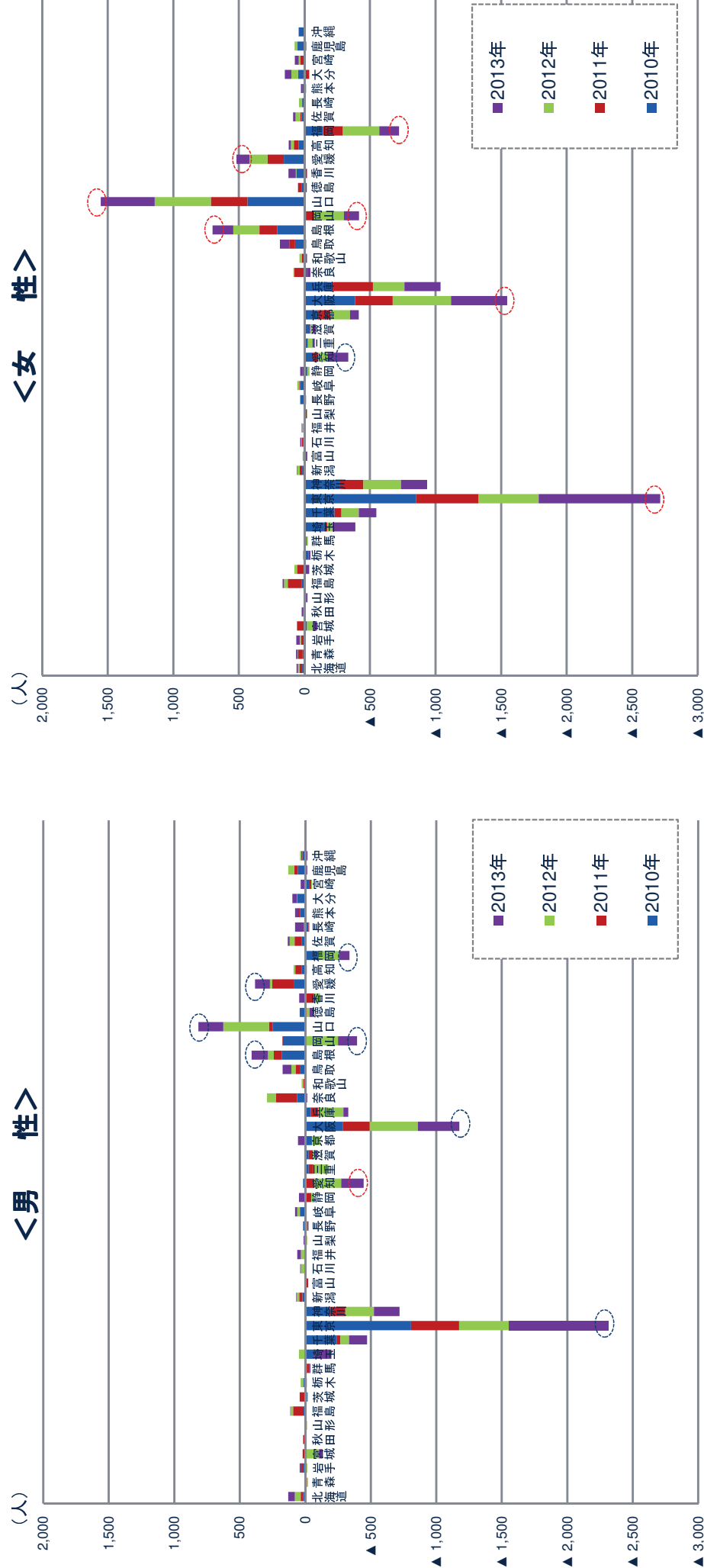


※転入・転出数は、総務省「住民基本台帳人口移動報告」による。

## 7②.【参考】都道府県間での人口移動の状況(男女別)

- ✓ 2013(H25)年の山口県からの転入超過は、男性191人に対して、女性が411人で約2倍
- ✓ 島根県、愛媛県からの転入超過も女性が男性に比べて多い
- ✓ 東京圏と関西圏、岡山県、福岡県への転出超過も男性に比べて女性が多い
- ✓ 中部圏への転出超過はやや男性が多い

(図表7②)都道府県間での転入超過の状況(2010(H22)～2013(H25)累計)・男女別

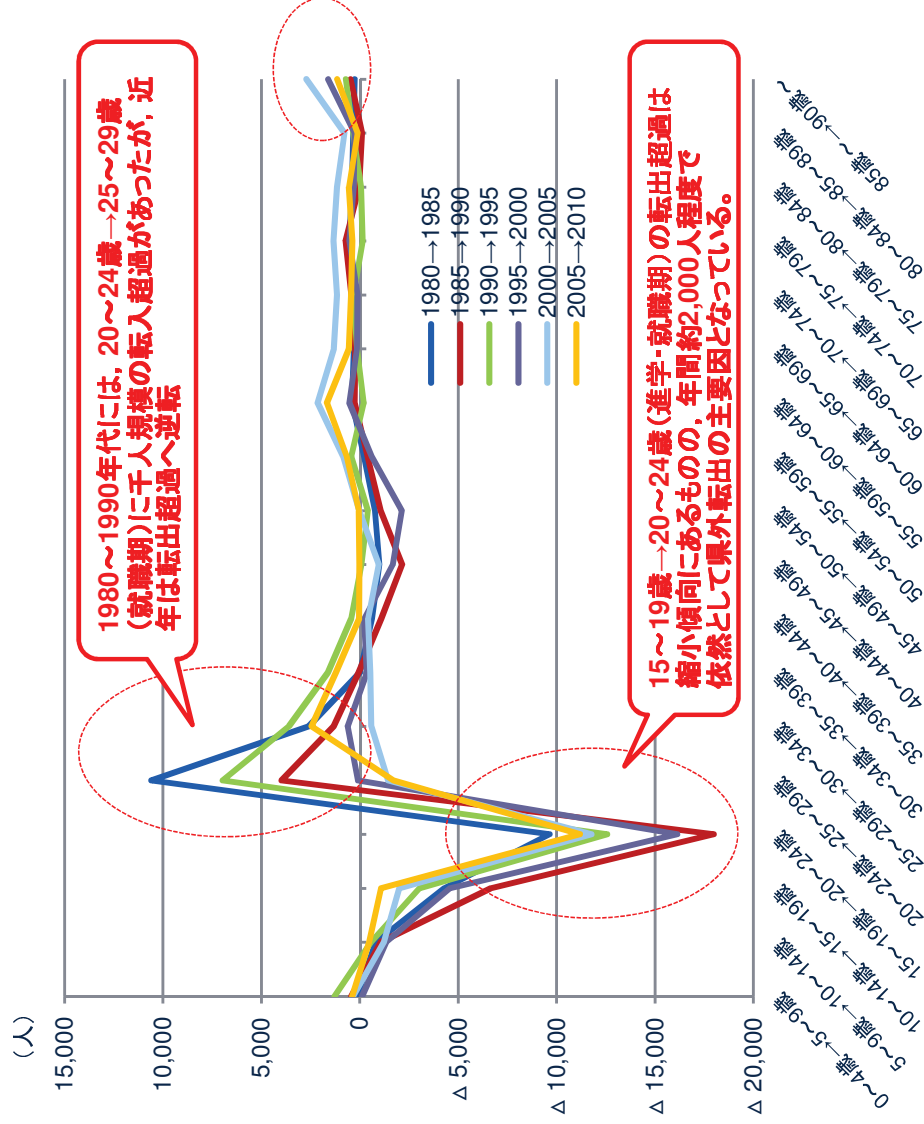


※転入・転出数は、総務省「住民基本台帳人口移動報告」による。

# 8. 本県人口移動の長期動向

- ✓ 「15～19歳⇒20～24歳」(進学期)の転出超過は縮小傾向
- ✓ 転入超過のピークは「20～24歳⇒25～29歳」から「25～29歳⇒30～34歳」へシフト
- ✓ 近年、「55～59歳⇒60～64歳」、「85歳以上」の転入超過が拡大傾向

(図表8) 人口移動の長期動向 (広島県 1980(S55) ⇒ 2010(H22))



	1980→1985	1985→1990	1990→1995	1995→2000	2000→2005	2005→2010
0～4歳→5～9歳	149	441	1,287	△ 118	336	391
5～9歳→10～14歳	△ 811	△ 1,055	△ 567	△ 1,326	△ 1,219	△ 471
10～14歳→15～19歳	△ 4,271	△ 6,639	△ 3,020	△ 4,561	△ 1,999	△ 1,078
15～19歳→20～24歳	△ 9,641	△ 17,985	△ 12,558	△ 16,121	△ 11,766	△ 11,178
20～24歳→25～29歳	10,611	3,985	6,981	108	△ 1,426	△ 1,712
25～29歳→30～34歳	2,599	1,341	3,612	626	△ 575	2,462
30～34歳→35～39歳	0	60	1,624	△ 359	△ 535	1,215
35～39歳→40～44歳	△ 608	△ 1,092	448	△ 225	△ 425	43
40～44歳→45～49歳	△ 988	△ 2,142	△ 79	△ 1,665	△ 960	14
45～49歳→50～54歳	△ 764	△ 1,050	△ 404	△ 2,129	33	53
50～54歳→55～59歳	△ 211	△ 381	440	△ 602	856	677
55～59歳→60～64歳	397	270	△ 198	538	2,152	1,676
60～64歳→65～69歳	295	226	154	148	1,328	564
65～69歳→70～74歳	375	423	330	110	1,164	439
70～74歳→75～79歳	530	735	△ 150	533	1,342	380
75～79歳→80～84歳	386	35	△ 67	315	1,155	556
80～84歳→85～89歳	328	△ 103	342	265	789	118
85歳～→90歳～	259	467	722	1,609	2,719	1,152
計	△ 1,364	△ 22,463	△ 1,103	△ 22,855	△ 7,032	△ 4,700

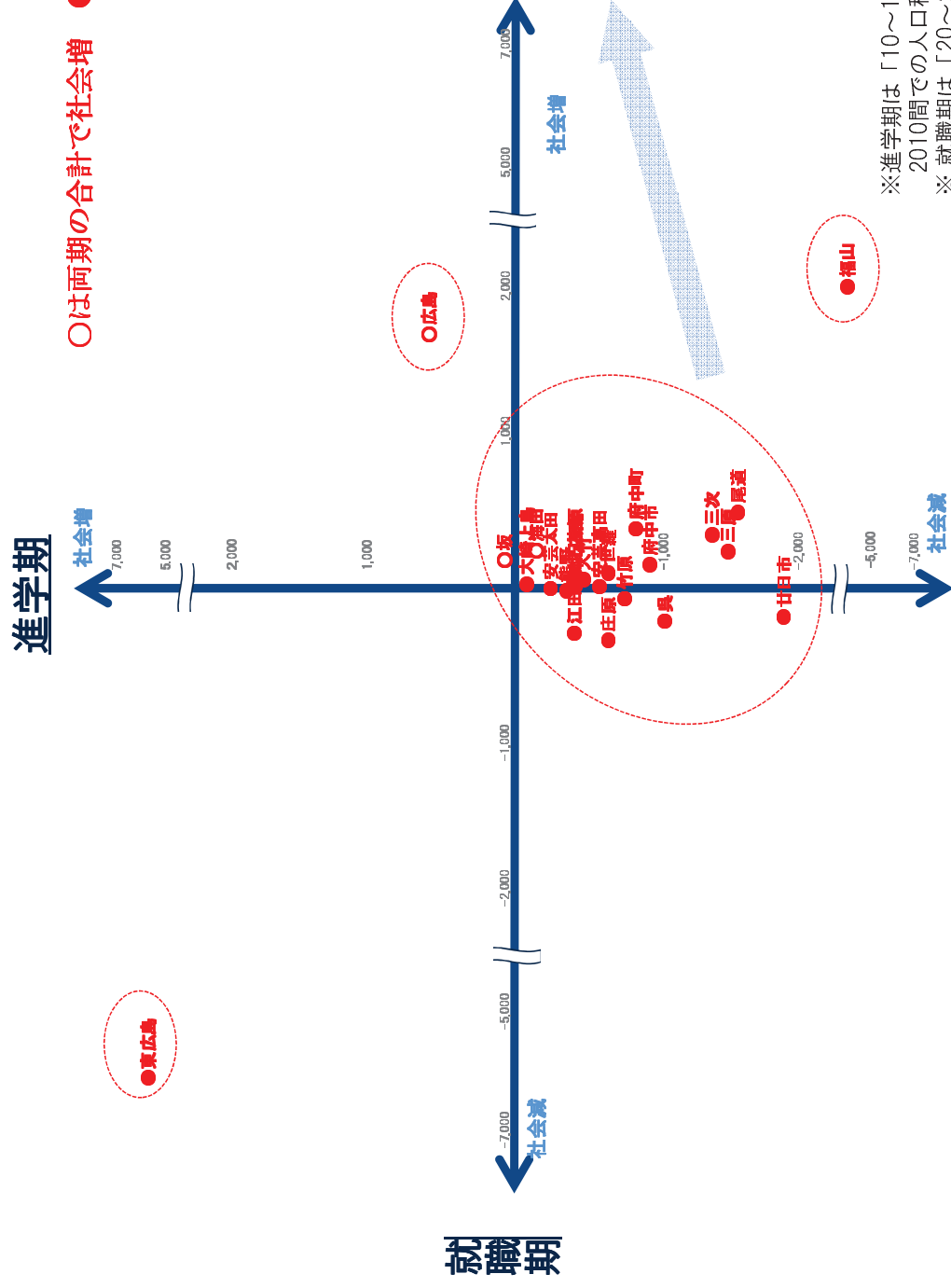
※純移動数は、「国勢調査」人口と各期間の生残率を用いて推定した値

# 9. 県内市町の世代別移動状況(進学・就職期)

<2005(H17)⇒2010(H22)間での、25歳未満の人口移動に着目すると>

- ✓ 広島市は進学・就職期ともに転入超過、福山市は進学期に転出超過となるが就職期は大きな転入超過
- ✓ 東広島市は進学と就職の両時期に、それぞれ大幅な転入、転出となる傾向あり

(図表9)進学期と就職期の社会移動の状況(2005⇒2010)



※進学期は「10～14歳→15～19歳」と「15～19歳→20～24歳」の2005→2010間での人口移動数の合計  
 ※就職期は「20～24歳→25～29歳」の2005→2010間での人口移動数の合計

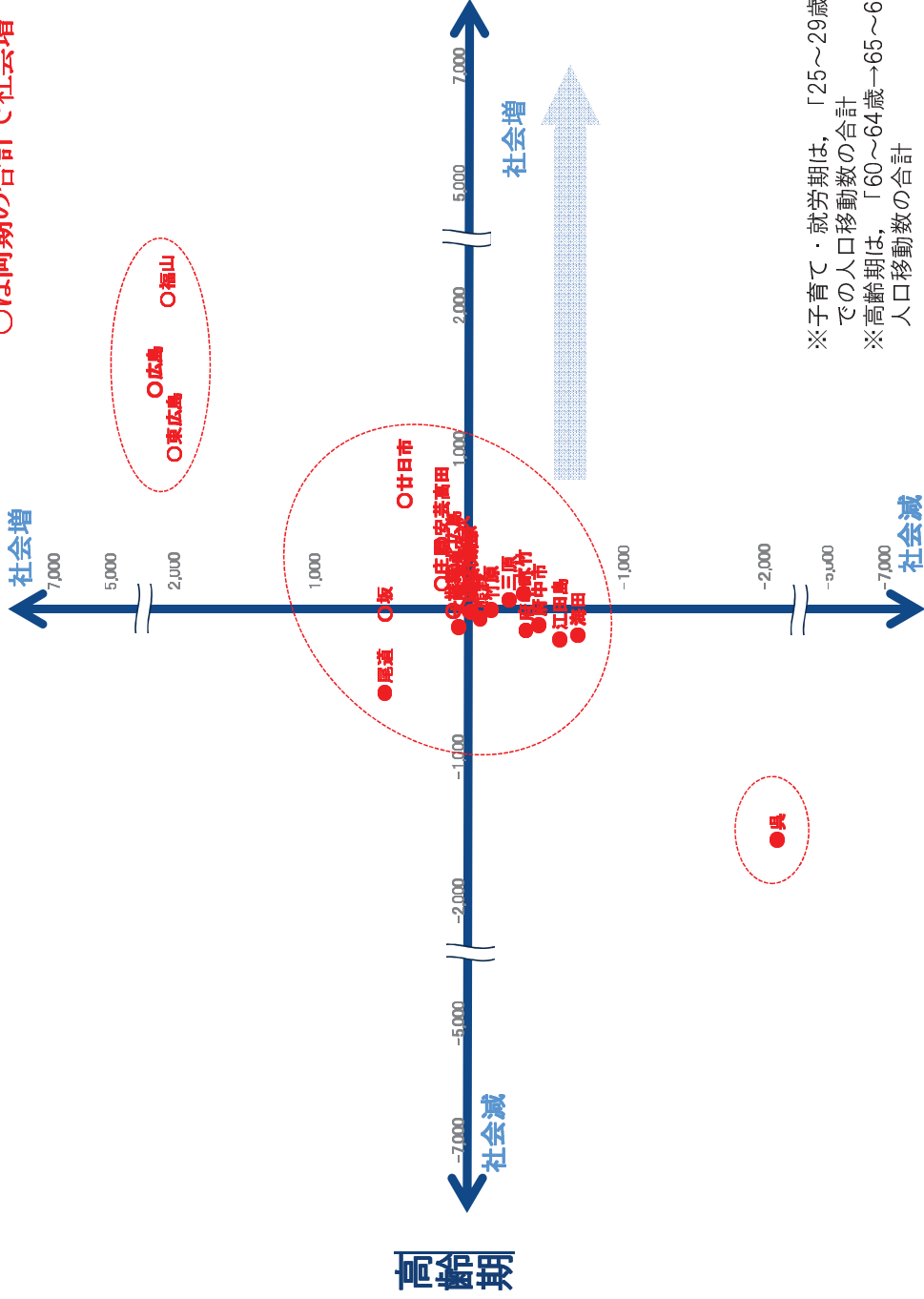
# 10. 県内市町の世代別移動状況(子育て～高齢期)

<2005(H17)⇒2010(H22)間での、25歳以上の人口移動に着目すると>

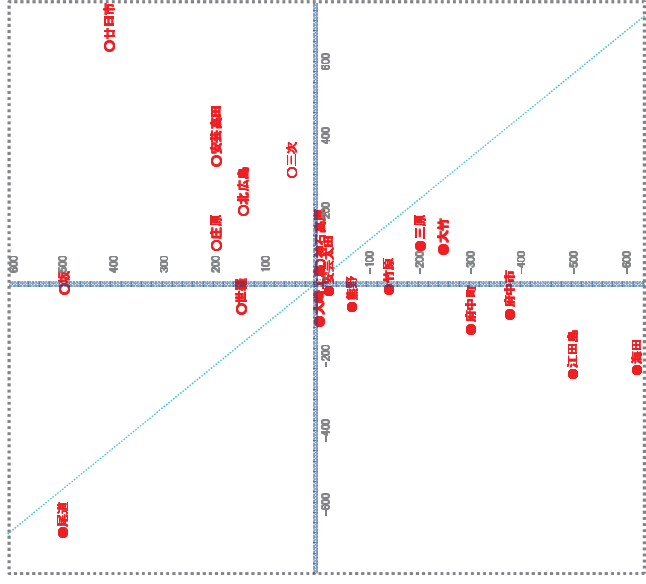
- ✓ 広島市, 福山市, 東広島市は、25歳以上の幅広い世代で転入超過, 呉市は25歳以下も含む全ての年齢階層で転出超過

(図表10)子育て・就労期と高齢期の社会移動の状況(2005⇒2010)

子育て・就労期



○は両期の合計で社会増 ●は両期の合計で社会減

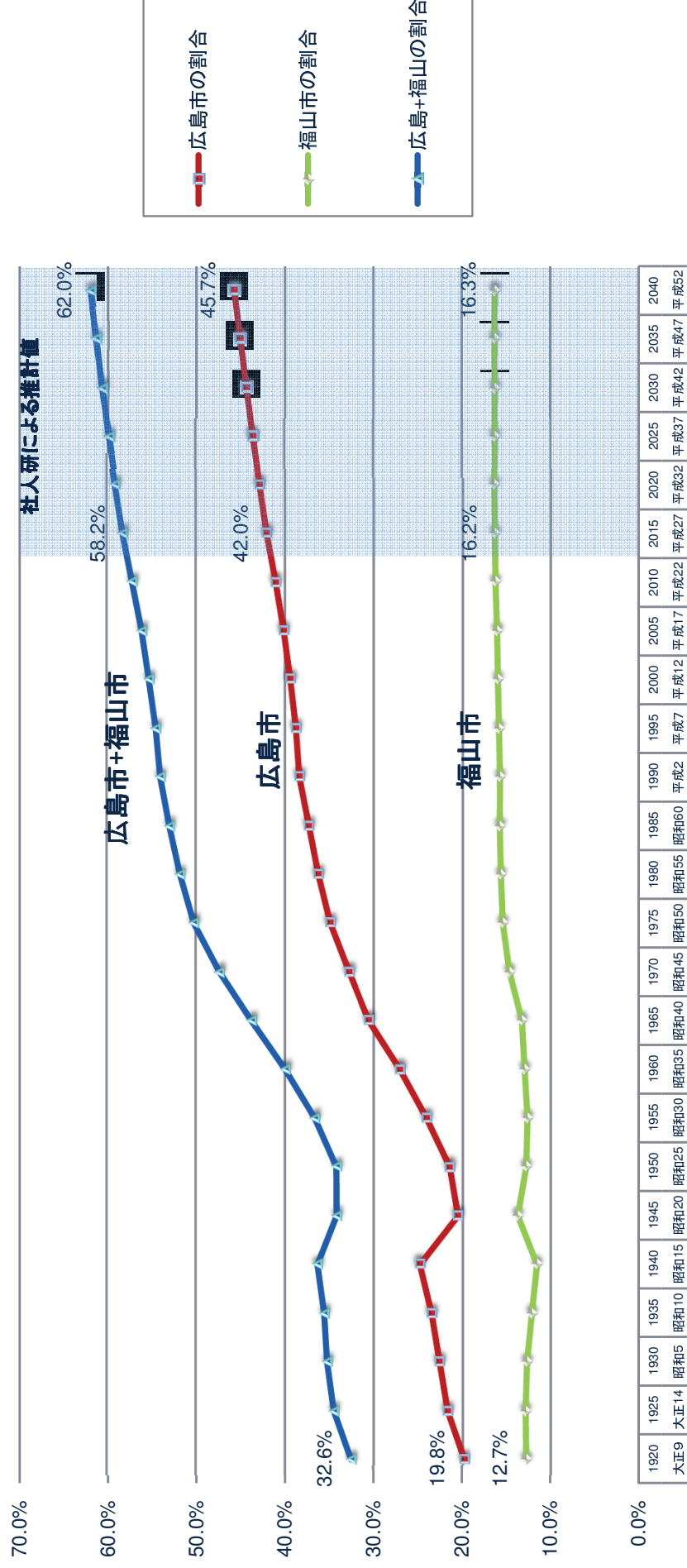


※子育て・就労期は、「25～29歳→30～34」から「55～59歳→60～64歳」の2005→2010間での人口移動数の合計  
 ※高齢期は、「60～64歳→65～69歳」から「85歳～→90歳～」の2005→2010間での人口移動数の合計

# 11. 二大都市（広島市，福山市）への人口集中

- ✓ 2015(H27)年時点での県人口に占める割合は、**広島市が42.0%**，**福山市が16.2%**
- ✓ 2040(H52)年時点で，**両市の人口が県人口に占める割合は、6割超となる見通し**

【図表11】二大都市人口（広島市，福山市）が県人口に占める割合の推移【1920～2040】



※算出の元となる総人口および年齢3区分別（0～14歳，15～64歳，65歳以上）人口は，総務省統計局「人口推計」と「国勢調査」による  
 ※2015（H27）年以降は，国立社会保障・人口問題研究所の平成25年3月推計による  
 ※合併前の広島市の人口には湯来町，福山市の人口には内海町，沼隈町，神辺町，新市町の人口をそれぞれ加えている





# (参考)人口シミュレーション

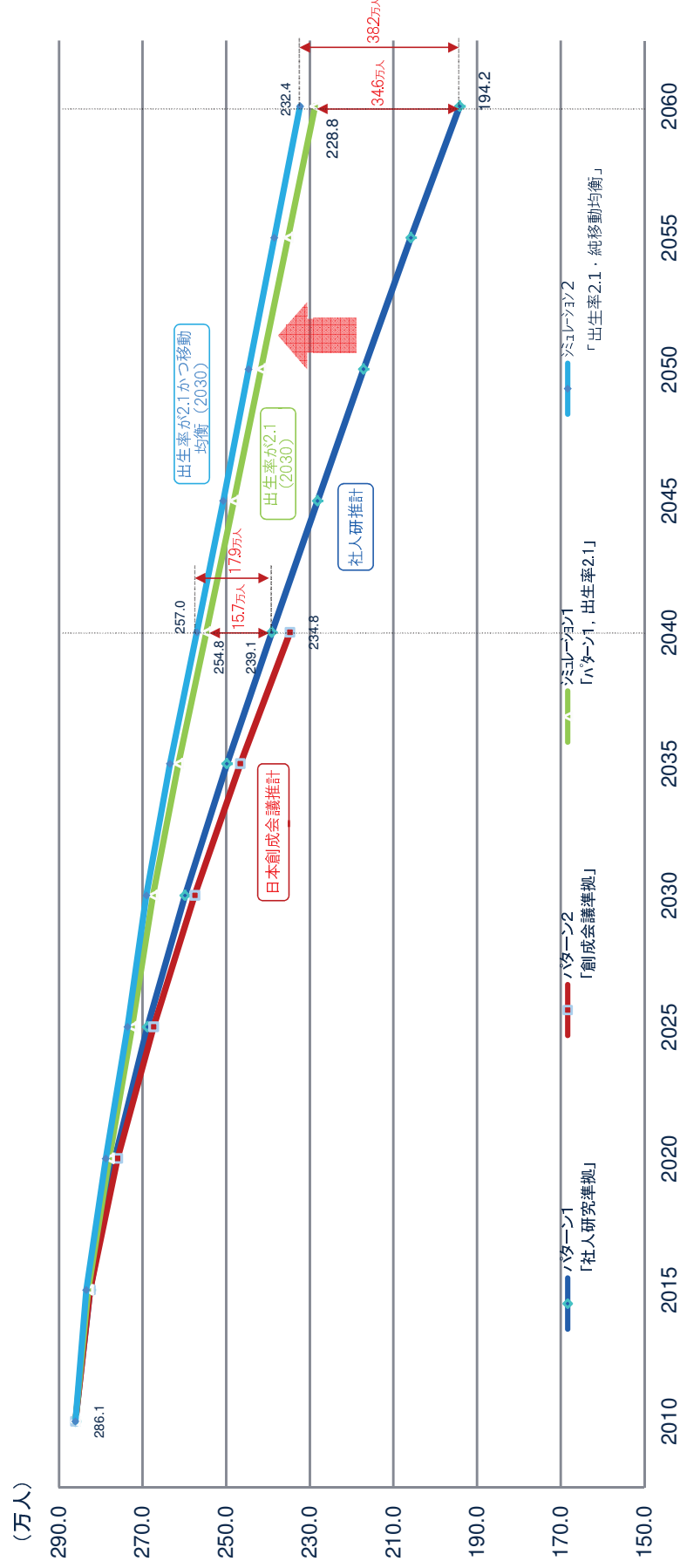
以下の人口推計等の結果及び、出生率・移動率等の仮定値を用いたシミュレーション

(出典・資料)

- ・国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」
- ・日本創成会議「人口が収束しない場合の全国市区町村別2040年推計人口」
- ・内閣官房 まち・ひと・しごと創生長期ビジョン <参考資料集>

# 参考. 人口シミュレーション①

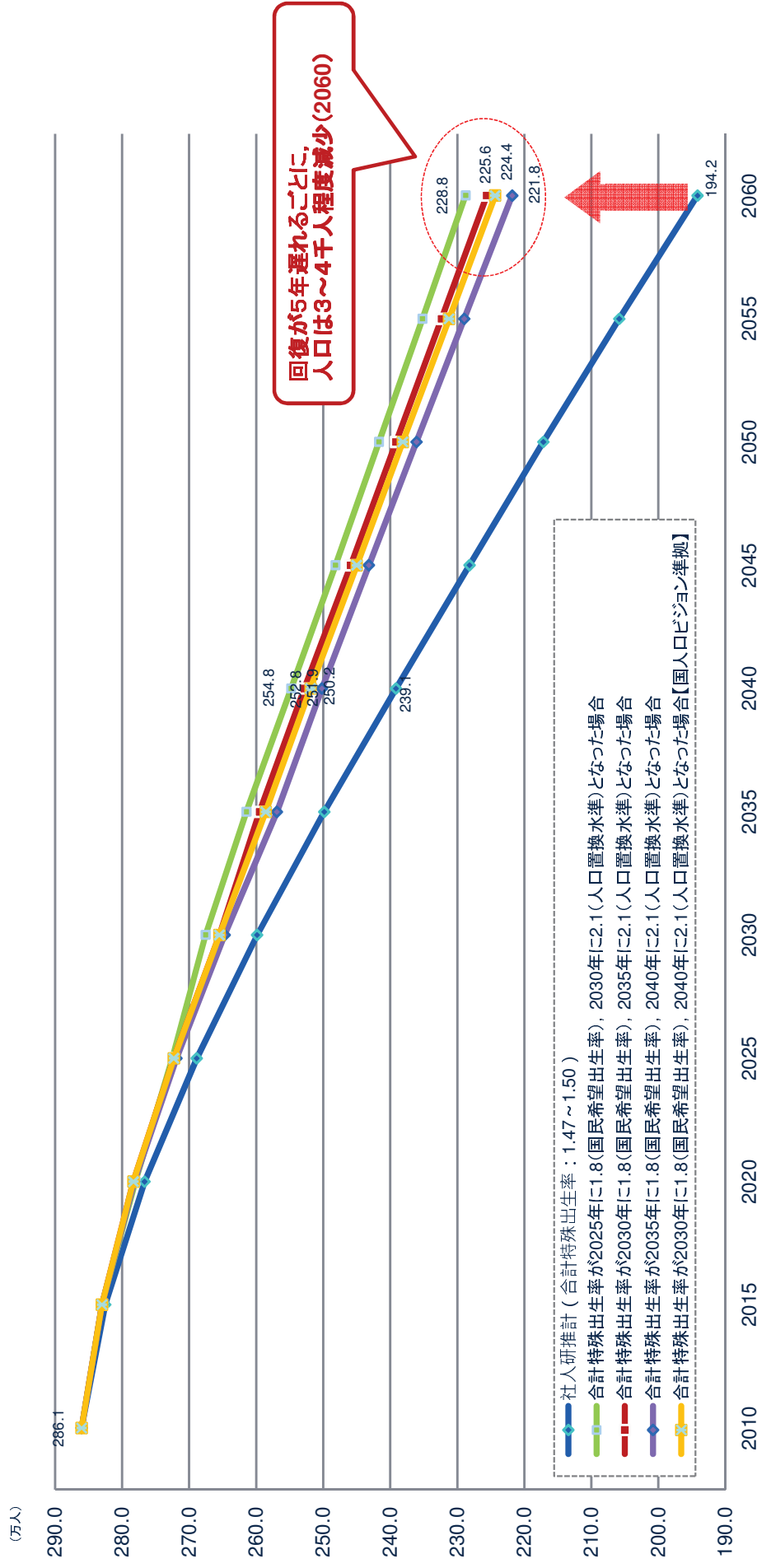
- ✓ 県人口は2040(H52)年に239.1万人, 2060(H72)年に194.2万となる見通し(社人研推計)
- ✓ 仮に, 出生率が, 2025(H37)年に国民希望出生率(1.8), 2030(H42)年に人口置換水準(2.1)まで回復した場合には, 2040(H52)年に15.7万人, 2060(H72)年には34.6万人の人口押上げ効果が期待できる
- ✓ 仮に, 2030(H42)年までに出生率が人口置換水準(2.1)まで回復し, さらに純移動が均衡(ゼロ)した場合には, 2040(H52)年に17.9万人, 2060(H72)年に38.2万人の人口押上効果が期待できる



※パターン1(社人研推計)は社会移動がある程度収束するモデル, パターン2 (日本創成会議推計)は社会移動が継続または拡大していくモデル  
 ※シミュレーション1はパターン1において, 合計特殊出生率が2030(平成42)年までに人口置換水準(2.1)まで上昇すると仮定  
 ※シミュレーション2はシミュレーション1に加えて, 純移動率が均衡(ゼロ)で推移すると仮定

# 参考. 人口シミュレーション②

- ✓ 仮に、合計特殊出生率が、2030(H42)年に希望出生率(1.8)、2040(H52)年に人口置換水準(2.1)まで回復した場合、2040(H52)年で約13万人、2060(H72)年で約30万人、県人口を押し上げる
- ✓ 合計特殊出生率の回復が5年遅れるごとに、2060(H72)年時点の人口は3~4千人程度減少



※国立社会保障・人口問題研究所の推計（H25.3推計）をベースに出生率を変えて試算